

病害虫情報 10月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成 27 年 10 月 5 日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第7号)10月予報

平成27年10月2日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、チャ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 8

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成27年9月18日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
縞葉枯病 (ひこばえ、水田内雑草、水田周辺雑草)	—	—	❖ 媒介虫のヒメビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カンキツ】

生育:やや早(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
ミカンハダニ	並	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000~2,000倍 オマイト水和剤 みかん: [7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ: [14日,2回] 750倍 等 ❖ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除が重要である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報 (平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナシ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒星病	—	◎	(予) オキシラン水和剤 [3日,9回] 500~600倍 等 ❖ 9月の発病葉が平年より多く、休眠芽への感染も多いと予想されるので、防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	やや少	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤の使用方法は各剤の使用基準に従うこと。 ❖ カンザワハダニは、秋に防除することで、大きな効果が得られる。
チャトゲコナジラミ	—	△	❖ チャトゲコナジラミは幼虫がすそ葉の葉裏に多く寄生するので、散布前にすそ刈りを行い、すそ部から茶株の頂上部に向けて斜め上方に薬液を散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
葉かび病	—	○	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 500～1,000倍、葉かび病: 500倍
うどんこ病	—	○	(予・治) カンタスドライフロアブル [前日, 3回] 葉かび病: 1,000～1,500倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 1,000～2,000倍、 アザミウマ類: 1,000倍
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや少	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類: 2,000倍、 ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍
アザミウマ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 5,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍 等
			◆ CMV等(モザイク病)の感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が、TYLCV(黄化葉巻病)の感染を防ぐためには、タバココナジラミの防除が、TSWV(黄化えそ病)およびCSNV(茎えそ病)の感染を防ぐにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ コナジラミ類防除は、飛込み抑制として施設のネット展張、発生確認として黄色粘着板の吊下げが望ましい。さらに施設内外の除草を徹底すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	【育苗培土混和】 ベストガード粒剤 [は種時又は鉢上げ時,1回] アブラムシ類、コナジラミ類:5g/培土L 【育苗期:株元散布】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回] コナジラミ類:1~2g/株 プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回] 2g/株 【育苗期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:1,000~2,000倍、 アザミウマ類:1,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや少	○	
アザミウマ類	並	○	
			◆ CMV等(モザイク病)の感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が、TYLCV(黄化葉巻病)の感染を防ぐためには、タバココナジラミの防除が、TSWV(黄化えそ病)およびCSNV(茎えそ病)の感染を防ぐにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ コナジラミ類防除は、飛込み抑制として施設のネット展張、発生確認として黄色粘着板の吊下げが望ましい。さらに施設内外の除草を徹底すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000～1,500倍 等 ◆ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長。
うどんこ病	やや多	○	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期,-] 500～1,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥で発生が助長されるので、日中の過乾燥に注意。
褐斑病	やや多	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日,3回] 1,500倍 等 ◆ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長。
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや少	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○	カスケード乳剤 [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:2,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アブラムシ類	やや多	○	サンマイトフロアブル [前日,2回] コナジラミ類:1,000～1,500倍 等 ◆ CMV等モザイク病の感染を防ぐためにはアブラムシ類、CCYV(退緑黄化病)の感染を防ぐためにはコナジラミ類、MYSV(黄化えそ病)の感染を防ぐためにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	◎	(予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 500～1,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日, 2回] 3,000～4,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日, 2回] 5,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日前, 3回] 1,000倍 等 ◆平成27年9月8日にうどんこ病に関する注意報を発表。
アブラムシ類	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] 2,000～4,000倍 等
アザミウマ類	—	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ:3,000倍
ハスモンヨトウ	やや多	○	アフーム乳剤 [前日, 2回] ハスモンヨトウ:2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ポリオキシシAL(1日)、アフーム(1日)、コロマイト(1日)、モレスタン(3日)

ミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響 (アリストライフサイエンス(株) 作物保護製品ガイド2015より)

- ▶ 影響のある剤:モレスタン、ポリオキシシAL、モスピラン、アフーム、コロマイト、サンヨール、サンクリスタル

タフパールとの散布間隔 (出光興産(株)ホームページより)

- ▶ ガッテン、ポリオキシシ:混用事例あり、サンヨール、カリグリーン、モレスタン:3日以上

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	多	○	(予・治) サプロール乳剤 [7日,5回] さび病:800~1,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍
黒斑病	多	○	(予・治) ロブラール水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 等 ◆発生初期の防除を徹底する。 ◆薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	ダントツ粒剤 [3日,4回] 株元散布:ネギアザミウマ:3~6kg/10a モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍
シロイチモジヨトウ	やや少	○	ハチハチ乳剤 [3日,2回] 1,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 ファルコンフロアブル [前日,2回] シロイチモジヨトウ:4,000倍 等 ◆薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	並	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ◆強い降雨の後には、予防散布を行う。
菌核病	—	○	(予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 2,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等
ハスモンヨトウ	やや多	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ハスモンヨトウ:1,000~1,500倍
オオタバコガ	並	○	トルネードエースDF [7日,2回] ハスモンヨトウ:2,000倍 ファルコンフロアブル [7日,2回] ハスモンヨトウ:2,000~4,000倍,オオタバコガ:2,000倍 等 ◆結球内に潜り込んだ幼虫には薬剤の効果が劣るので、結球前までの防除を徹底する。
ネギアザミウマ	—	○	ハチハチ乳剤 [14日,2回] アザミウマ類:1,000倍,アブラムシ類:1,000~2,000倍
アブラムシ類	やや多	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	ハチハチ乳剤 [14日,2回] 1,000~2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [14日,3回]
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	やや多	○	ハイマダラノメイガ:1,500倍 モスピラン顆粒水溶剤 [14日,1回] アブラムシ類:2,000~4,000倍 チューンアップ顆粒水和剤 [発生初期(但し、前日),-]
ナモグリバエ	—	○	ハイマダラノメイガ:2,000~3,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 10月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部9月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるとでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	40%	30%	30%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	20%	40%	40%

*9月24日発表1か月予報による。

(2) 10月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
カンキツ カキ	カメムシ類	少	少	1) 巡回調査では、カキ果実で発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(根府川)、伊勢原、南足柄で平年より少ない。(－) 3) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、山北で平年より少なく、県予察ほ(根府川、上吉沢)で平年よりやや少なく、伊勢原で平年並み。(－) 4) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
チャ	カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	やや少	1) 抑制トマトの巡回調査では、タバココナジラミの寄生葉率は5年平均より少ない。(－) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	アザミウマ類	少	並	1) 抑制トマトの巡回調査では、被害は見られず、発生が5年平均並。(±) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制キュウリ	べと病	中	並	1) 巡回調査では、発生がやや少ない。(－) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	褐斑病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が9年平均よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	タバココナジラミ	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が9年平均より少ない。(－) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	ワタヘリクロノメイガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
ネギ	さび病	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒斑病	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	ネギアザミウマ	多	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	シロイチモジヨトウ	－	やや少	1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない(－)。 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成27年・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 9月の降水量が平年より多かった。(+) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦および横浜は平年並(±)。 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
ダイコン	ハイマダラノメイガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の調査では、9月の誘致植物の寄生率が平年より高い。(+) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
野菜全般	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査では、キャベツは発生が平年並(±)、抑制キュウリは発生が平年よりやや多い(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)の調査では、黄色水盤への飛来量は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) キャベツの巡回調査では、ヨトウムシ類の寄生が平年よりやや多い。(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦は平年並(±)、横浜は平年より多い(+) 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)
	オオタバコガ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦および横浜は平年並(±)。 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(+) 4) 気温は平年より低く、降水量は平年並の予報。(－)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因